



人 人 にんにん連携



発行元：甲賀圏地域連携検討会・甲賀圏医療福祉推進協議会 公立甲賀病院内 地域医療連携室 0748-62-0234 (代)

医療依存度の高いケースの在宅支援を考える

湖南市地域包括支援センター 濱野さおり 氏

医療依存度の高い方が在宅で療養生活をしていくには、医療職と介護職が密に連携することが求められます。今回発表したのは、脳出血による重度の後遺症の方で、家族が強く在宅介護を希望した事例でした。MSWによる丁寧な家族面談、リハ職看護職による介護指導や環境整備の提案、試験外泊にて課題を確認し、家族の気持ちに寄り添いながら退院調整に努めたケースでした。退院後も、多職種が関わって在宅介護を支援し、主介護者である妻の不安への支援・本人の意欲向上について現在も模索をしています。

ケアの質向上＝本人家族のQOL向上に影響する要因として、以下のことがあげられると思います。

- 支援者が本人や家族の思いを知ろうとし、その思いに寄り添っていること
- 支援者全員がケア方針を共有すること
- 情報のやり取りや相談がしやすい関係を日頃から築いていくこと

これからも、研修会・事例検討会で研鑽を重ね、甲賀圏域で多職種の連携が深まるように、顔の見える関係づくりをしていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

事例検討会報告



第6回 甲賀圏地域連携検討会が開催されました

日時：平成26年8月21日(木) 14時～16時

場所：甲賀合同庁舎 4A大会議室

参加者：医療関係者 15人、居宅介護支援事業所 10人、サービス事業者 8人、行政等 7人 **計 40人**

テーマ：「入院から在宅療養への円滑な移行を推進するために ～医療依存度の高い脳出血患者の在宅支援を考える～」

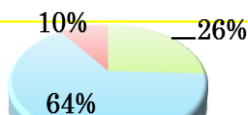
内容：事例について、各担当者から関わりについてコメントを頂き、グループワークでは①在宅医療をすすめる上での課題は何か、②課題を解決するための連携やどのような支援・サービスがあればよいかについて話し合いを行いました。

アンケート集計の結果



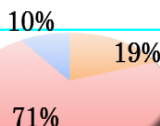
今回の「事例検討」の内容は理解できたか？

■とても理解できた ■理解できた ■まあまあ理解できた



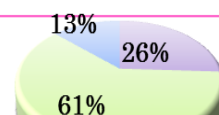
今回学習した内容は今後あなたの現場での実践に役立つと思いますか？

■とても役立つ ■役立つ ■まあまあ役立つ



今回の研修に参加して満足していますか？

■とても満足している ■満足している ■まあまあ満足している



《感想から一部抜粋》

- ・医療依存度の高い方の在宅での療養生活を、どう支えていくのかいろんな意見を聞くことができて大変勉強になりました。
- ・限られた時間や条件のもと、その時にできる最善の支援を心掛けることが大切であることを改めて認識しました。
- ・薬剤師の立場からアプローチできたので、有意義な検討会になりました。
- ・デイサービスと介護者との関わりを考えさせられた。一番近い位置での立場だと実感しました。
- ・在宅介護にもいろいろ問題があることもわかった。その中で、ケアマネ・デイサービスの必要性もわかり勉強になった。

事例検討会の感想（参加者からの声）



・薬剤師はチームの一員としてなにができるのか？この検討会に参加し、他職種の方の実例をお聞きし、それを強く感じました。薬剤師は本年度からの参加で、まだ在宅への参加は足を踏み入れたばかり。症例の中に薬の名前が入ってなかったりするのが残念なことも。薬局がかかわった例として、独居の認知機能の落ちた方の服薬管理など、薬を分けてデイサービスで服用できるものはそこで確実に服用するなどコントロールできる様になった例もあります。薬の困った！を解決するのが薬剤師です。また、「Drが往診に行っても薬剤師の在宅訪問はできるか」の質問ですが、答えは「できます」（ただし患者さんが薬局に来られるのが困難な場合）。+介護給付の限度額とは別枠になります。薬の服薬管理に困られている患者さん、ケアマネさん、ヘルパーさんいらっしゃいましたら最寄りの薬局まで声かけをお願いします。

（甲賀薬局 甲西中央店 薬剤師 河野 真美氏）

・今回の事例検討会は、入院から在宅療養への円滑な移行を推進するために、医療依存度の高い脳出血患者の在宅支援を考えるでした。退院支援で本当によくあるケースで、老老介護、介護する側からされる側に、医療依存度の高いケースが増え、しかも家族の協力も得られない場合がある。そんな中で私に出来る事は、多職種との強い横の繋がりを持ち、円滑に進める事、その為に日頃からのネットワークを構築しておく事が大切だと思う。これからも私発信しネットワークを広げて行きたい。

（公立甲賀病院 看護師 片山 綾子氏）

・今回、事例検討に参加して医療依存度の高い利用者様を様々な職種が関わりを持ち在宅生活を支援されているケースでした。参加されている方も様々な職種の方がおられ、その専門職の視点で活発な意見交換がされました。本人の思い、家族の思いその思いを充分把握しその思いに寄り添うことが大切だという事、そしてチームケアの重要性を再認識しました。今回の事例検討会で学んだ事を今後のケアマネジャーの業務に活用し、ご利用者様によりよい在宅生活を過ごして頂くように努めたいと思います。

（ケアプランかふか 介護支援専門員 南 量子氏）

・今回は、入院中の早い段階から他職種が関わり、同じ病院内であったからこそ在宅に向けての連携がスムーズに進んだよい事例だったと思います。医療依存度が高いケース、利用できる社会資源が限られておりもっと増えればと思う一方、医療と介護の密な連携こそが在宅支援のポイントだと感じました。他職種それぞれの立場から貴重な声を聞かせていただき勉強になりました。今後ますます顔の見える関係が広がっていくことを願っています。

（ケアプランセンターこうか・こうなん 介護支援専門員 増田 裕子氏）

・医療依存度が高い事例でしたが、主介護者である妻が抱え込み、他家族へのアプローチが必要なケースでした。グループワークでは、他職種の方からの意見を聞くことができ、いろんな見方や可能性に気づくことができ勉強になりました。特にこれまで連携が取りにくいと感じていた薬剤師の方との情報交換ができたことは、とてもよい機会になりました。今後の支援に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

（甲南地域包括支援センター 社会福祉士 坂尻 純子氏）



事例検討会の感想（発表者の声）



甲西リハビリ病院 地域連携室
社会福祉士 杉野 美穂子 氏

今回の事例では、医療依存度が高い患者様がゆえに「在宅で介護をしていくのは難しいのではないか」という意見も多くありました。しかしその中でご家族の「家でみてあげたいんだ」という強い思いと、社会資源が限られている中で各職種の方のご尽力により在宅介護が叶ったケースのように思います。またご意見を伺う中で自身として反省すべき点も多くありました。

もっと患者様の退院後の生活、というところを見据えた上でご家族・各職種の方のご協力を得ながら、退院支援に取り組んでいけたらと思います。



甲西リハビリ病院 作業療法士
甲斐 寛子 氏

今回の事例検討会を通じて、医療依存度の高い方の退院後の支援に関して様々な意見を頂き、大変勉強になりました。医療依存度の高い方に関しては在宅介護を行う上でご家族への身体的・精神的負担が大きくなることが多く、今回の事例に関してもキーパーソン一人への負担が大きいという問題があります。入院中からあらかじめ、介護者の負担を軽減できるようなリハビリテーションや在宅環境の検討、今後のサービスに関わる方への情報提供を十分に行っていく必要を改めて感じました。



甲西リハビリ病院居宅介護支援事業所
介護支援専門員 羽坂 雅子 氏

「四季を感じてほしい」との妻の思いと献身的な介護、またサービス事業者の方々の協力を得ながら医療依存度は高いけれども在宅生活を送られています。在宅生活を続けるにあたり、本人が何を望んでいるのか、どうしたら本人のモチベーションを高められるのか、妻の介護負担軽減等課題はたくさんありますが、多職種と連携を取りながら今後も支援をしていきたいと思えます。



デイサービス憩々 相談員
杉本 佳奈香 氏

今回の発表を通じて、医療依存度の高い方が在宅へ移行する為に様々なアプローチが必要であることを再確認しました。在宅に戻られるまでに、在宅での必要な知識や心構え等、ご本人様へのケア以上にご家族へのケアが大切であることを実感しました。また在宅に戻られる際通所サービスは一番関わり合いが多く、変化や気づきが日々あります。ご家族の大変な介護へ少しでも寄り添えることができるように、しっかりとケアを行い、また多職種との連携もケアの一環であると言う事を忘れてはいけないと思いました。今自分にできることをもう一度考えさせられる貴重な時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

《書記より》



生田病院 社会福祉士
高橋 広希 氏

※ 発表者順に記載しております

今回の事例について、非常に良い事例だと思いました。奥さんの「家で見ていきたい！！」という強い希望のもと、多くの方が連携をとり1つのゴールに向かって皆さんで全力を尽くされたのが伝わってきました。私はMSWですが、最近の事例を振り返ってみてもここまで在宅を希望される方は少ないと感じます。また、医療依存度の高い方が在宅生活するにあたり「受け入れ先の少なさ」等多くの課題もみえてきました。奥さんには無理のない程度に頑張ってくださいたいです。

知っとこ！！  情報！



＜回復期リハビリテーション病棟での在宅支援について＞

甲西リハビリ病院 地域連携室 平泉 昌輝 氏

甲西リハビリ病院は回復期リハビリテーション病棟、療養病棟がありリハビリテーション目的に入院をする病院です。患者さまの看護や介護を行うと同時に、リハビリテーションを継続して行い、自立した生活が送れるよう支援することを目的としています。当院のリハビリテーションの特色は365日体制で回復期リハビリテーション病棟では一日最大9単位（180分）の訓練を行っています。入院された当日から他職種カンファレンスを行い、看護・リハビリ計画を立てていき入院から退院後の生活のことも考えて解決すべき課題の抽出を行うと同時にチームで共有していきます。また入院中からご家族さまへの介助指導や家族指導、また栄養指導や薬剤指導など、患者さま、ご家族さまに必要な援助をそれぞれの専門職がひとつのチームとしてアプローチを行っており必要時は外出訓練など行い、随時住宅改修の提案などもさせていただいております。

入院適応患者さまは脳血管疾患や大腿骨部の骨折が回復期リハビリテーション病棟への入院適応疾患となります。入院患者さまの多くは急性期病院からのご紹介を占めてきますが、腰椎圧迫骨折など急性期病院での入院適応にはならず在宅での療養を指示された場合でも入院対象となるケースもあります。「足腰に力がはいらなくなった」「家で転倒して介護状態になってしまった」などの声が地域からはよく聞かれます。リハビリ病院に入院をするためには急性期病院からの転院だけと思われがちですが、在宅からの入院も受け入れをすることもありますので、なにかお困りのことがあれば一度当院の地域連携室にお問い合わせをよろしくお願いいたします。



＜デイサービス憩々のサービス提供内容について＞

デイサービス憩々 施設長 志田 健治 氏

- ☆対象者・・・要支援者・要介護者 ☆定員・・・34名 ☆提供時間・・・9：30-16：40 ☆営業日・・・月・火・水・木・金・土
- ☆食費・・・616円（ティータイム時のおやつ込み） ☆加算・・・入浴加算、個別リハビリ加算、介護職員処遇改善加算など
- ☆時間短縮対応可能・・・基本7-9での3-5・5-7可能 ☆時間延長可能・・・ご家族の急な予定等で最長20：30（ご希望者は夕食¥616）
- ☆看護師常勤 ☆医療依存度の高い方（胃ろう・経鼻経管栄養・IVH・その他）歓迎
- ☆入浴は完全個室浴（機械浴と7種類の入浴剤完備）☆カルチャーな取り組み充実しています。
- ☆きざみ食・流動食・腎臓食・糖尿食も対応可 ☆他者へ配慮の下の喫煙スペースあり（玄関先）
- ☆外出イベント（機能訓練の為に外食・ショッピング・ウォーキングなど）盛りだくさん
- ☆お試し利用あります（昼食付） ☆ご見学の送迎もあり ☆脳の機能訓練（脳トレ）



～送迎範囲～

甲賀市全域 ・ 湖南市全域 ・ 日野町全域 ・ 野洲市中主付近



滋賀県甲賀市水口町北泉2丁目84

TEL：0748-62-5552 FAX：0748-62-5560

次回の研修会のお知らせ

次回の参加もお待ちしております！！

日時：平成26年10月16日（木）

時間：14時～16時

場所：甲賀合同庁舎 4A 大会議室

内容：「顔の見える関係から始まる在宅支援

～障害をもつ家族と認知症高齢者への支援～」（仮）

日時：平成26年11月20日（木）

時間：14時～16時

場所：甲賀合同庁舎 4A 大会議室

内容：「顔の見える関係から始まる在宅支援

～難病～」（仮）